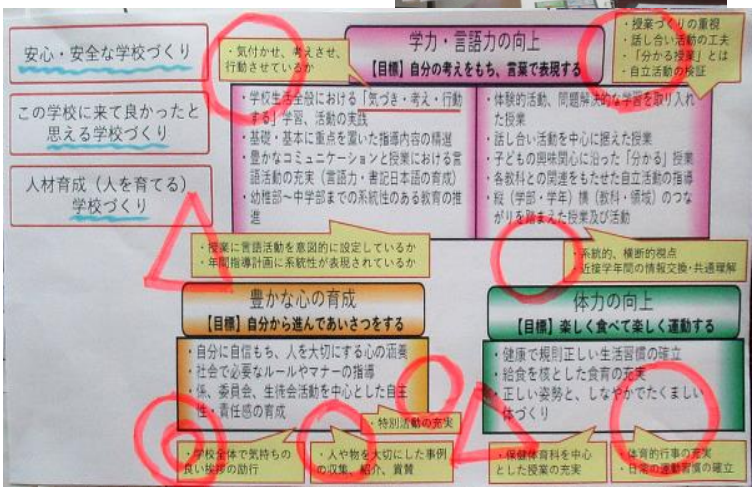
学校評議員・学校関係者評価委員合同会議が開かれました。

令和３年２月１６日（火）　篠原校長

「学校の教育活動に係る諸課題について学校評議員・学校関係者評価委員会委員の方々からご意見・ご助言をいただき、今後の開かれた学校・特色ある学校を目指すための学校運営に資する」という目的のもと、学校を評価していただく仕組みがあります。

本日は、委員の方々にお集まりいただき、学校参観をして、評価委員会を開催しました。

学校では、本年度の重点目標や具体的な目標を掲げて教育活動を続けてきました。そして、年度末反省として各学部や各分掌において、その成果と課題を「学校自己評価」としてまとめています。また、保護者学校診断アンケートを実施して、保護者からのご意見やご要望をまとめました。それらの資料をもとに、本年度の学校の取組を評価していただきました。

委員からは、「新型コロナウイルス対応でやりたいことができなかった状況はあったが、創意工夫してできることを実践していたことは評価できる。様々な制約や困難さはあったが、ICTの活用の推進や学習方法の工夫、感染予防意識の高まり等、新たな生活や学習様式が生まれた。子ども達が集いたくなる学校の大事な価値が再認識された。フェイスシールド活用などで聴覚障がい者の情報保障の大事さを再認識できた。スクールカウンセラーの相談体験の取組は、困った時に助けてもらえる方法を知らせる意味でも素晴らしい。」等、学校はよく頑張っていると高い評価をいただきました。様々なご意見・ご助言もいただきましたので、今後の取組の改善に活かしていきたいと思います。